



IC付きエコバッグを使ったシステムで 真の「エコ」の実現へ

レジ袋の製造や廃棄による環境負荷を減らすため昨年から始まった「レジ袋有料化」。しかし「次はエコバッグの大量生産に伴う大量廃棄を懸念しているんです」と、箕面市の株式会社MILKBOTTLE SHAKERS(ミルクボトルシェイカーズ)代表の喜多泰之さんは話す。同社が今春から開始したエコバッグシステム「Loopach(ルーパック)」は、「企業の作りすぎによるエコバッグの無駄をなくす」ことを目標に掲げる。生みの親である喜多さんは「これまでの経済的価値観を変えたい」と挑戦の日々を続けている。

誕生までの経緯

初の自社ベンチャー事業となるLoopachは、これまでの喜多さんの経験がヒントになった。20代に仕事で訪れた海外では、同世代に「日本人はいつまで“プラバッグ”を持っているの？」と批判的に言われた。一方で国内の梱包材メーカーからは「レジ袋が有料化になったとたん、自分たちが悪者扱いされるようになった」という嘆きも聞こえた。日本人の環境意識の低さや、業界のひずみを知った。また前職での活動や企業のコンサルティングに関わるうちに、「今後は環境や社会を見据えたビジネスは成長のため不可欠になる」と確信した。「今はアパレル業界でも、再利用する『リサイクル』や、さらに付加価値を付ける『アップサイクル』が浸透してきました。それもいいのですが、本当の意味で環境を考えるのであれば、『1つのものを長く使う』という価値観を持つことが大事なんです」と喜多さん。以前から関心のあ

ったアパレル業界における「大量生産・大量廃棄」の問題とともに、これまでの仕事を通じて実感した、将来のビジネスの在り方を組み合わせたアイデアがLoopachとして形になった。

システムの仕組み

Loopachの仕組みはこうだ。ICタグ付きの専用エコバッグを購入した消費者は、協力企業や店舗にあるリーダーで、買い物をするとICを読み込む。事前にスマホなどにインストールした専用アプリ内でポイントが貯まり、レジ袋を使用しない日々の積み重ねが可視化でき、環境への貢献を実感できる。また、ポイントは基金として利用され、非営利法人やソーシャルベンチャーへの寄付や投資が可能となる。営利のみを追求する企業が参入して本来の目的からそれるのを防ぐため特許も出願。今は専用バッグのみだが、今後は他社とも連携して、カバンや繰り返し使えるカップなど、容器や収納用具全般で展開する計画もある。



PROFILE 喜多 泰之 さん

株式会社MILKBOTTLE SHAKERS代表。豊中市在住。アパレル業界で働く両親のもと、幼い頃からファッションに興味を持つ。学生時代からアルバイトをしていたアパレル企業「アーバンリサーチ」に就職。店長職からブランドPR、バイヤー、イベント企画など多岐に渡る業種を経験し2018年退社。同年、フリーのブランディングディレクターをスタート。2019年にブランディングやマーケティング、コンサルティングを手掛ける現在の会社を設立。

12 つくる責任 つかう責任

「つくる責任 つかう責任」

一つのモノを長く使うほどに価値が向上していく仕組みを形成することで、モノの作り過ぎによるSDGsウォッシュを防止、環境負荷軽減に貢献。

17 パートナリシップで 目標を達成しよう

「パートナーシップで目標を達成しよう」

事業者・市民・非営利団体などのマルチなステークホルダーで手を取り合い、地域単位で文化形成をしつつ社会課題へアプローチしていく。



加盟店で置かれる予定のICリーダー。「レジでお会計をする際に「袋いらないです」ではなく、「Loopachで!」とみんなが言っているのが自然な光景になると最高ですね」と喜多さん。

大阪・関西万博までに 「関西で当たり前」に

システムを成立させるためには、消費者と同時に協力企業の賛同が不可欠。Loopachは従来のビジネスモデルとは異なり、非営利の側面も大きい。一部のグローバル企業は関心を寄せているが、まだまだ一般企業や個人商店にはハードルが高い。大手企業・団体への賛同を募りながら、喜多さんは「地域の商店街にこそ興味を持ってもらいたい。地元の個人商店の方が意義に賛同して使うことで、身近な人々の価値観にも影響するのではないかな」とも考える。今後の展望については、「2025年の万博までに、『関西ではLoopachが当たり前』になってほしいなと思います。世界初のシステムでもあるので、日本に来た海外の皆さんに『なにこれ? いいね!』と新鮮な驚きを与えたいですね」と語る。ポイント寄付で社会に貢献できる“真のエコバッグ”。喜多さんの挑戦はまだ始まったばかりだ。



上質なバッグであることはもちろん、外箱のパッケージにもこだわって生分解可能な素材を使用。側面には「Loopach is your last shopping bag.」とメッセージが書かれている。

Loopachのビジネスモデル



SDGsとは「持続可能な開発目標」のこと。2015年の国連サミットで採択された。2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標だ。地球上で「誰一人取り残さない」社会を実現するため、17の目標と169のターゲットを設定している。

箕面公園 いいね! プロジェクト (イベント案内)

発見! 箕面公園フィールドミュージアム フォトコンテスト

箕面公園はとても自然が豊かです。その魅力(いいね!)を写真に撮って応募してください。

期間▶7月25日(日)~8月31日(火)
ただし先着 500 枚

概要▶スマホで箕面公園の魅力を写真に撮って箕面公園アプリ「まちやまナビ」専用フォームにて応募してください。優秀作品をテーマ別に9品を選定し、本アプリ及び箕面公園公式ホームページ・昆虫館内で発表させていただきます。また、各賞に選定された作品(以下「入賞作品」)を応募された応募者(以下「入賞者」)には、賞品・賞状を進呈いたします。応募いただいた作品は当コンテスト運営者(箕面公園指定管理者メイプル・ハーツ企業共同体)が管理するInstagramに随時投稿し、広く公開いたします。

- ・「箕面公園昆虫館館長賞」3品
- ・「フィールドミュージアム賞」3品
- ・「まちやまライフ賞」3品

詳細は箕面公園の公式ホームページをご覧ください。

昆虫館

生体企画展 「カブ・クワ展」

さあ夏だ! 日本と世界の カブトムシ・クワガタたちが キミをまっている

会期▶7月16日(金)~8月31日(火)
場所▶館内生体展示コーナー
(※さわることはできません)

伊丹市昆虫館・箕面公園昆虫館合同企画 「魅惑のいもむし・けむし展」

イモムシとケムシの全ての魅力が詰まった企画展 そのかわいらしさと不思議さに出会ってみよう

会期▶開催中~8月31日(火)
※箕面公園昆虫館のみ会期を延長します
休館日▶火曜日(7月20日)~8月31日は開館
入館料▶高校生以上280円中学生以下: 無料
障害者手帳の提示で本人と介助者1名: 無料
※安心安全のため、お子様には保護者(大人の方)の同伴が必要です

箕面公園からのお知らせ

- ・公園内園路への一般車両(バイク・自転車含む)の乗入れはできません(許可車・指定車除く)。公園内は歩いて散策ください ※令和3年4月1日より自転車も対象となりました。
- ・新型コロナ感染拡大防止、感染予防のために野外であつてもご協力ください。

▶お互い距離は十分にとりましょう
▶ご来園は少人数、ご家族単位で。
▶集団での宴会、飲酒はお控えください
▶人とすれちがうとき、会話、人が多く集まるエリアでは、散策、ウォーキング、ランニングの際はマスク、口布を着用ねがいます (※屋外で人と2m以上離れている時はマスクをはずして熱中症予防!)

新型コロナウイルス感染拡大防止、感染予防のために

- ▶昆虫館は入館者数の制限をおこなっています(再入館はできません。館内イベント中止、館内一部コーナー利用制限あり)
- ▶昆虫館の入館、見学時はマスクの着用をお願いします
- ▶検温をおこなっています。
- ▶入館、退館の際は手指の消毒をお願いします(アルコール消毒液を設置しています)
- ▶感染拡大状況により臨時休館となる場合もあります。あらかじめご了承ください。